

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200393		
法人名	有限会社 介護社		
事業所名	グループホーム助一 みのかも		
所在地	岐阜県美濃加茂市森山町5丁目23番3号		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成31年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kan=true&JigyosyoCd=2171200393-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年は施設前の舗装工事をし、車椅子、歩行での移動スペースが広くなりました。気候の良い日には、ほとんど外へ出て季節を感じながら散歩をするのが日課です。畑は少し小さくなりましたが、スイカやかぼちゃは順調に育ち利用者様のお腹を満たしてくれました。季節ごとの行事も大切にしており、4月の花見外出、9月には運動会。今年は猛暑続きで夏祭り改め秋まつりを開催し花火を楽しみました。何事も全員参加を目標とし楽しみ喜びを感じ活気ある生活を共に過しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所名の「助一」は、創業者の先祖が、親孝行ぶりを認められ「孝心助一」の木札を代官所から授かり、その遺徳を継承したいと願い、名付けられている。常に、利用者を中心に考え、何事にも全員参加を目標とし、皆で一緒に楽しみ、喜びを感じながら活気ある生活が送れるよう取り組んでいる。また、年度始めには、職員一人ひとりが、前年度の振り返りと次の目標を決め、自らのモチベーションを高めている。管理者は、日々、職員が働きやすい職場環境作りに努め、職員定着に繋げている。毎年、利用者の生活の様子をまとめたアルバムを家族に送り、信頼関係を深めると共に、家族と両輪で利用者支援が行えるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	助一の精神と理念として掲げてある「いつでも、どこでも、だれにでも」を基本に、毎月の生活の中で常に対応できる様に心掛けています。勉強会等でその確認、接遇についても振り返りを行っています。	「いつでも、どこでも、誰にでも」の理念は、事業所に関わるすべての人に関係する言葉でもあり、目につきやすい場所に掲示し、職員間で共有している。常に、利用者一人ひとりの尊厳を大切に、地域の中で安心して過ごせるよう支援し、理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業者・利用者に係わる全ての方に対して平等にそして、気持ちよく過ごして頂ける様施設の周りの清掃、行き合う人とのあいさつ、コミュニケーションを心掛けています。	週1回、事業所周辺の清掃活動を行っている。地元の中学生が年2回、庭のプランターの寄せ植え作業のため来訪したり、高校の合唱部が歌声を聴かせてくれるなど、利用者が楽しみにしている交流がある。毎月、利用者全員に鉢植えの花を届けてくれる人もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「家族が・・・」「自分が・・・」と考え興味、関心を持たれる方への説明や見学、突然の訪問にも対応できる様、対応の仕方も話し合っております。現場研修の方の受け入れもしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は隔月に開催し行政・長寿支援センター・地域代表・歯科医師・家族代表の方々の参加で現状報告をしております。いろんな視点より問題提示、話し合いをしております。	運営推進会議は隔月に開催し、行政、地域包括支援センター、家族、歯科医師などの参加があり、行事報告や今後の取り組み、利用者の日常生活について等、様々な意見交換をしている。また、歯科医師による他施設の事例紹介をもとに学びながら、利用者支援につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	美濃加茂市サービスネットワーク会議に参加したり包括主催の認知症カフェ等、他の事業所の方との情報交換をし、良い部分を取り入れる事もでき、活動に積極的に参加しております。	常日頃から、行政と連絡を取り合い、情報の交換をしている。今年、台風の影響で断水があった際には、対応方法について、行政から情報を得たり、今後の対応策の見直しを行いながら、話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束についての勉強会をおこない「もしかしてこれは拘束？」など、常に考えながら対応しています。またスタッフがストレスを溜めない方法についての取り組みや研修への参加も行っていきます。	身体拘束や心の拘束についての学習会を行い、弊害についても学びながら、全職員で共有している。また、職員自身の健康と心身の状態が、利用者にとどのように影響を及ぼすかも意識し、拘束のないケアに取り組んでいる。委員会の設置もしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	見えない所で起きているかもしれないという危機感を持ち、お互い意識しながら、気づいたらその場で声かけていく、「言葉」の使用の仕方も注意しあっております。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について外部研修を受けています。また、職場内の勉強会でも取り上げています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、利用者ご家族に確認を取りながら、ご理解と納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での親睦やアンケートによる家族の思いの確認、運営推進会議での意見、来訪時の対応等で機会を設けながら反映させている。	家族の意見や要望は、訪問時に時間をかけて聞いている。夏祭りの際に開催する家族会でも、意見交換をしている。隔月に送付する「たより」には、担当者からのコメントと、利用者が自分で近況を記入する欄があり、無理な場合は職員が代筆し、家族との絆を深められるよう努めている。	事業所として、利用者と家族の要望が実現できるよう検討している。家族会でも、さらに思いや意向を吸い上げ、サービスの質の向上につなげられるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案等、スタッフ会議、勉強会などで意見交換を行い反映させています。	管理者や介護支援専門員も、現場に従事しており、職員の意見や提案を聞き、速やかに対応している。代表も、利用者の状態を把握しながら、共に過ごす時間を多く持ち、何事も「いつでも、どこでも、だれでも」の理念のもと、運営が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人に個々の意見や思いなどを聞き、やりがいを持って働けるよう環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講し、その都度受講した職員が中心となり、定期的実施している勉強会で研修内容を発表しています。職員間でも学びたい内容を抽出し、勉強会を開催しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や会議を通して、他事業所との交流を図っている。必要に応じて専門職の意見も頂き質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない場所で不安もあると思いますので、こちらから優しく笑顔であいさつ、声かけをして安心して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方から話しを十分に聞き、安心と信頼を持って頂けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方から頂いた情報や担当ケアマネ等からの情報を基に必要支援の検討・確認をし、その人に合った支援を提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の声に耳を傾け話を聞いたり、レクリエーションと一緒に楽しみ、又食器拭きや洗濯物を干したり、たたんだりして頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信・電話で近況報告を行い、往復ハガキにてホームの行事には家族の参加もお願いし、絆を深めています。来訪の少ない家族には電話を入れ、訪問をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りなど外出されて、その帰りに食事などされておられます。	親戚や知人、孫などの訪問がある。再訪の声かけをしながら、馴染みの関係継続を支援している。外出時には、行き先で馴染みの人に会い、会話を楽しんでいる。利用者個々の希望は、家族に協力を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩・歩行リハビリ時、自立者が車イスの方を押して頂いたり、集団レクリエーション時会話がはずむよう、利用者間の支援・支え合いができるような雰囲気作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	季節行事や各種イベントに際し、随時ご家族にお知らせしお越し頂けるよう努めています。又、利用者様が入院した後もお見舞いに出掛け情報を頂いたり、ご家族の相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に利用者様と一対一でゆっくりと話を傾聴する時間を設け、暮らしの希望意向をくみとり、職員全体でカンファレンスを通じながら共有に努めています。	個別支援時には、表情や仕草、会話の内容から、思いや意向を把握している。傾聴の学習会も定期的に行っている。日々、利用者との信頼関係を深めながら、本音を引き出し、希望が実現できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報を頂くことはもとより、日々の生活をしながらこれまでの生活や習慣になっている事、趣味等を随時うかがい、又、家族からもうかがう事で生活背景の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活の流れを知りつつ、毎日の健康状態に合わせてケアを行いながら、職員間の情報を共有し利用者様の体調管理に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり家族の意見を確認し、利用者様の情報を共有し担当者がさらに医療面、生活面を理解、把握することで利用者本位の介護計画の実践に生かせるよう努めています。家族訪問時には、現状の説明と見直しについて説明し理解を頂いています。	日々、利用者の状態を把握するよう努め、今までの介護計画の成果と課題を分析し、話し合っている。介護計画は、介護記録をもとに、家族の意向、担当職員の意見、医師の助言等を参考に話し合い、計画作りを行い、適宜、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの介護計画に沿ったケアを実践し、職員間の共有とするため個別記録に詳細に記す事を心がけ、介護計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で生じたニーズに応じて、主治医や歯科医師の往診や他科受診等必要に応じて医療的支援・指導を受けています。又家族が通院できない状況時はスタッフが変わって通院の対応しています。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんの訪問や月に2回音楽療法を行い、毎日体操とレクレーションを通して、共に楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回往診して頂き、その都度適切な治療を行って頂いています。歯科についても同じように往診して頂いています。	入居時に、かかりつけ医の説明をし、家族が選択をしている。月2回、協力医の訪問診療を受け、歯科医師も随時往診がある。医療情報を家族と共有し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に何か変化があれば、ケアマネジャー、看護師、管理者にすぐ伝え、受診するなどの対応をします。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が日頃より病院関係の方々や情報交換し、利用者家族と治療方法を話し合いながら、安心して治療できる関係作りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	小さな変化から症状、対応、経過、結果をできる限り連絡をとりあい、家族にも訪問の機会を増やして頂き、通院等にも参加して頂きながら方針等を確認し支援している。	契約時に、重度化や終末期についての指針を説明し同意を得ている。状態の変化時には、早い段階で、医師を含めて関係者で話し合いを重ね、事業所でできることを説明し、本人と家族が安心して過ごすことが出来るよう支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所中の利用者様の既往症や内服薬の把握に努め月1回の勉強会ではロールプレイングなどを用いながら急変時の対応に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回の防災訓練と毎朝、声だし通報など手順のイメージトレーニングを行っている。また災害を想定した勉強会と運営推進会議で行政とも話し合い連携を図っている。	防災訓練は、年2回、消防署立会いの下、夜間想定を含めて実施している。また、毎月、職員で役割分担し、独自の訓練にも取り組んでいる。今年、台風被害があった事から、電気・ガス・水道など、すべての災害対策を見直し、点検を行っている。地域との話し合いも行い、協力体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんそれぞれの性格により、言葉を選びながら声かけし、尊厳を損ねないように時と場合を選んで対応。決して否定せず、利用者さんの思いを受け入れる。不穏気味な状態の時は少し距離をとり見守りながら対応しています。	利用者一人ひとりの尊厳を大切にすることを目標とし、傾聴の研修で学びながら、職員は、常に優しく穏やかに声かけをするよう心がけている。トイレには、パーテーションを置き、目隠しをしながら、プライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やレクを拒否された場合でも無理強いせずに対応、希望された事が出来ない場合は別の事をしてもらい気分を害さないようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さん方の希望には、出来る範囲で対応、都合が悪い時は時間をずらすなどして対応。利用者さんの得意分野を把握し、各利用者さんに合った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度出張理容を利用、利用者様の要望を聞き、カット、丸刈り、カラーを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でできた野菜と一緒に収穫し、職員に調理してもらい、利用者様と一緒に食事をしている、食後の茶碗拭き、膳拭き、エプロン干し等の片付けも一緒にしている。「前の畑で採れた野菜だよ」と伝えると一口二口と増して食して下さいます。	調理専門の職員が、庭で育てた旬の食材を利用して調理し、利用者と一緒に食している。利用者の経験談も聞きながら、次の献立の参考にしている。また、庭にテントを張って食事を楽しんだり、日曜には、利用者とお好み焼きや焼きそば作りをすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の少ない方には、声かけやフレイバーを入れ飲みやすくして対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、毎食後に実施。自己にてやられる方には見守りと磨き方の観察、介助する方には、出来る所をして頂き、出来ない所は介助にて対応。		

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄時間を決めて声掛けしたり、一人ひとりの様子に気を付けています。	排泄パターンを把握し、こまめな声掛けや誘導でトイレでの排泄が習慣になっている。トイレ利用後の利用者の様子にも気を配り、衛生上の配慮から、手洗い時のタオルは、自分の物を利用できるように工夫し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食後やおやつ時の水分摂取には、完飲して頂けるよう寄り添い声掛けしています。食事バランス良く食べて頂いています。季節や行事に合わせたメニューも楽しんでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時、スタッフ2名で楽しい会話をしながら笑顔で対応しています。利用者の方に着替えの準備をして頂く等自己尊重に配慮している。	週2回を基本としているが、利用者の状況や体調に合わせて足浴やシャワー浴など、柔軟に対応している。職員は2名で対応し、安心・安全な入浴を支援している。入浴後は、オリーブオイルを塗って保湿に努め、肌の乾燥を予防している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間出来るだけフロアで皆さんと趣味、運動と楽しく過ごし、夜間は良眠をとって頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬の際も、日付・氏名・服薬時、朝・昼・夕と声を出して確認をして服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味を大切に楽しく過ごせるように寄り添っています。パズル、数合わせも時間をかけ自力でやって頂きます。外気浴も楽しみ季節ごとの行事や歌を楽しんだりボランティアの協力も頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と本人の希望にそい、お墓参りして頂きます。外出外食をご家族と共にされています。	天気の良い日には、近隣を散歩している。中学校や高校が近くにあり、グラウンドでの生徒たちの様子を見学することある。職員が見守る中、元気な利用者が、車椅子利用者を押して出掛けることもある。年間行事では、花見や観光地に全員で出かけることを目標とし、喫茶店に行く時も全員参加である。	

岐阜県 グループホーム助一みのかも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物が必要な利用者様は買い物のお手伝いをしています。ほとんど、家族が用意して下さいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人の希望があれば自由に掛けて頂いています。手紙も本人の希望があれば、書いて頂けるよう見守り支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはベンチが置いてあり、その場で季節の花や畑の作物など眺めて楽しまれています。ユニット間も自由に行き来ができ、別ユニットの利用者の方との交流も楽しまれています。食堂のテーブルも位置などの工夫をしています。	玄関には季節の花を活け、手作り作品も飾っている。共用空間は広く、リハビリを兼ねたレクリエーションを行うことができる。また、ユニット間を安全に行き来する事ができ、利用者同士での交流も図られている。毛糸を利用した作品や、行事の写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やロビーにも自由に行き来でき移動の制限がないので自由に過ごして頂く事ができます。自己にて移動できない人もスタッフと一緒に2つのユニットを散歩できます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその人らしさがあり、家族の方との思い出の写真を飾られたり、使い慣れた家具や椅子が置いてあったり、ご主人の位牌を置かれ毎日お参りされる方もいます。	各居室には、電動ベッドや木製の整理タンスが設置され、整理整頓ができ、安全な環境で利用している。日当たりが良く、冬でも、昼間は暖房を入れなくても過ごすことが出来る。使い慣れた寝具や椅子、思い出の品を飾り、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の前には、その人の写真や大きいネームプレートをかけたり、トイレも大きく表示しています。歩行器や杖は、使い慣れたものを使用しています。		